

「自ら学ぶ子どもを育てる授業づくり」

～習得・活用学習の深化と広がりをとおして～

I 主題設定の理由

本校では、これまで山梨県学力向上パイロットスクール事業で取り組んだ活用学習と学級力向上プロジェクトの二本立てで研究を積み重ねてきた。活用学習では、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用して、三段階思考法で自分の考えを書く活動を行ってきた。これらの取組をとおし、少しずつ自分の考えを整理して論述することができるようになってきたが、個人差がある。中には、なかなか書き始められない児童や最後まで書き終えることができない児童もいることは確かであり、そういった児童への書き方の支援や工夫をさらに考えていくことが必要である。

また、児童が抱える課題に対応する具体的な支援を行うだけでなく、児童の「もっと学びたい」と思う気持ちを育てることも、学力向上の土台となる。なぜなら、活用学習で扱う「難しい」問題に挑戦する行動のベースには、児童の「もっと詳しく知りたい」「もっと難しい問題に挑戦したい」と思う欲求があるからである。児童がその欲求をもてるような授業づくりをしていくことが、より質の高い学力へとつながるのではないかと考える。

児童自らが学びたいと思えるような授業をつくっていくには、いくつかの視点から授業を見直す必要がある。個人差がある集団の中ではどのような学習スタイルが有効なのか、児童が興味関心を示す学習内容とは何か、子どもの問いを生む教師の投げかけはどのようなものがあるのかなど、よりさまざまな視点から習得・活用学習を見直し、具体的な方策を探っていくことをくり返すことをし、授業改善をしていきたい。

このような実践を積み重ねていくことをとおして、やがて児童たちの学力や教師の指導力、さらに学級力の高まりが図れると考え、このテーマを設定した。

II 研究の内容

1 研究授業

これまでの研究の成果を基に、算数科の活用学習に限定せず、他教科での活用学習や習得学習の充実にも取り組む。

- ・第1学年 算数科 「おおきいかず」 竹川きよみ教諭
- ・第2学年 国語科 「説明の仕方に気をつけて読もう
分かりやすく説明しよう」 行田 玲子教諭
指導： 峡東教育事務所 指導主事 三森 公仁 先生
- ・第3学年 算数科 「考える力をのばそう ～重なりに目をつけて～」
小林みずほ教諭
- ・第4学年 国語科 「ごんぎつね」 武井美奈子教諭
- ・第5学年 算数科 「比べ方を考えよう」(百分率とグラフ) 飯島 裕明教諭
- ・第6学年 国語科 「絵の魅力を伝える鑑賞文を書こう」 志村貴美子教諭
指導： 峡東教育事務所 主幹・指導主事 竹川 和彦 先生
- ・はぐくみ 国語科 「みつけたことを くわしくかこう」 平塚すみり教諭

2 学級力向上プロジェクト

「学級力アンケート」の分析結果をもとに、「スマイルタイム」を通して学級改善を図る。

3 学力向上にかかわる取組

- 山梨市の英語科の取組について、また、普段の授業で使える教室英語を中心に学習会を行う。
- 家庭学習の内容について情報交換し、より充実した実践につなげていく。
- 週3回の朝学習、週2回の朝読書、および年数回の自学ノート展示・掲示の取組を継続する。

II 成果と課題

1 成果

- ・授業のめあてを提示し児童と共有することで、その時間に何を身につければよいか、何を学べばよいか理解して、学習に臨むようにした。このことにより、その時間のふり返りを児童自らがを行い、次時に向けた前向きな言葉が聞こえるようになったことは、授業に対する児童の意識が高まったといえる。
- ・文を書く学習活動を行う際に、第2学年では、目的意識と学習意欲をもてるよう、手作りおもちゃで遊ぶ時間を設定した。また、第6学年では、絵画の鑑賞ポイントを広げるために、アートゲームを取り入れた。これらの取組の結果、1年生にも分かりやすい説明書を書きたいという気持ちを自然と持たせることができ、どう書いてあると分かりやすくなるのか、文章を読み返すポイントづくりに活かすことができた。また、6年生では、友達とアートゲームをする中で、自分にはない表現の語彙や自分では発見できなかった鑑賞のポイントを知ることができ、その後の表現活動に活かすことができた。これらの成果は、書く活動を支える取組が授業を活性化させ、それらの取組をどういう目的でどのタイミングで行うか、単元を見通す中で、考えていくことの大切さを認識できた。
- ・今年度の授業をふり返る中で、それぞれの授業に工夫された掲示物が見られた。特に、児童に単元のゴールをイメージさせる手立てとして、見本文が挙げられる。これから始まる学習の最終にどのような成果物ができていけばよいのか、常に見られるよう、見本文が教室内に掲示されてあれば、児童は常に意識して授業に臨める。特に、国語科では、授業を活性化させる工夫の一つとして、掲示物が有効であるとわかった。

2 課題

- ・作文を書くために、スモールステップを用いて取り組むことによって、ある程度の成果は得られたが、スモールステップなしで作文を一人で仕上げることに課題を感じる児童はいる。この課題を改善するためには、十分に伝えたいことを簡潔に分かり易く伝えるための文章力について、日常的な文章力向上の指導が必要ではないかと考える。
- ・話し方や聞き方、説明する時に使用する言葉などを掲示することにより、それらを意識できるようになった児童が見られたことは成果である。しかし、そのときその学年だけでなく、小学校6年間をとおして、自分の考えや思いを人に分かり易く伝える力を身につけられるよう、継続した指導を各学年の実態に応じて行えるよう、言語環境を整える必要がある。
- ・学級力向上プロジェクトは、自治の力を育てることに有効であることは明らかであり、学力向上を支える重要な取組の一つでもある。今年度の取組内容をふり返ると、これまでの取組を踏襲している傾向が見られる。この取組がマンネリ化しないよう、児童が意欲的に継続して取り組めるよう、スマイルタイムの取組内容に新たなものを取り入れ、さらなる充実を図ることが大切である。

IV 成果物

- 各学年の習得・活用学習に関わる指導案・学習シート・掲示物
- 家庭学習がんばりカード・自学ノート紹介用掲示物
- 教室英語一覧シート

(研究主任 小林 みずほ)